

PAPER LOGOS



www.
logos.ne.jp

旅、人、アウトドア。

特集

青春と
アウトドア

2023
VOL.

11

trip + people + outdoor = PAPER LOGOS

佐賀県伊万里市 / 巻頭特集は「青春とアウトドア」というタイトルで森林環境科の高校生を半年間密着! / 17歳のスウェーデントーチと18歳の演習林 / 振り返れば彼らの青春はコロナ禍だった / 投手として登板できなかった山口くんは「ベンチからの景色はちょっと嫌でした」と唇を噛んだ / あいみょんとブルーハーツの青春 / 春 / 誤植ではない / 青春の次に春と書いてみた / でもなぜ突然に春という季節の言葉が? / リニューアル第2弾の11号は春夏秋冬の季節ごとに「旅、人、アウトドア。」をお届けすることに決定! / 滋賀県・びわ湖 / 気ままなキャンピングカーでの旅は、そして誰もいなくなっちゃった / 佐賀県唐津市 / 噂のゆるフェス=「唐津シーサイドキャンプ」で、どぶろっくがスーパースターだと知る / 夏 / 夏といえば? かるロゴス! フェスのアイテムは軽いが正義なのだ / 鳥取県智頭町 / 自家製天然酵母パン&クラフトビールのタルマーリーへ / 超高温で焼き上げたピザに我を失った夜 / 自家製酵母を使ったパン生地は、野生的に気の向くままに生きているように見えた / そして、時々ニワトリが登場 / というか、ニワトリが抱っこをねだるって知っていましたか? / 秋 / 秋といえば? たき火! 薪の組み方からたき火で調理するMAKIBI料理までを簡単ガイド / 山梨県、宮城県、滋賀県、新潟県のキャンプ場 / 2014年から2019年までの秋キャンプの思い出を振り返る / 冬 / 岩手県一関市 / 雪降る町でおもちをめぐる冒険は、ついたり、食べたり、旅したりの3日間 / 京都府城陽市 / LOGOS LAND CUPの名のもとに少年少女がEnjoyベースボール&BBQ! / 巻末特集は、北海道の礼文島&利尻島へ / 島にまつわる「旅、人、アウトドア。」だったらなんでもありな連載企画第2弾は、花の島と利尻富士の島へ / 基本、原付バイクでの移動は雨にも負けず風にも負けず / 夜逃げ夫婦のような大荷物のおっさんふたり組の珍道中にご注目!

連載

N45,27E140,58 / 島と風

0 2

礼文島・利尻島 北海道

page.096



たき火
百景

NO. 004/100 page.092

猫苗代湖のしぶき氷

NO. 005/100 page.094

帯上の田舎キャンプ



LOGOS LANDCUPレポート
少年少女以上、
青春未満。
冬。
page.088

page.081
ついたり、
食べたり、
旅したり。

おもちゃどころ岩手県関の旅



2014-2019
秋キャンプ・
アーカイブ
page.074

秋の
たき火の
はじめ方
秋。
Page.070



春。
車中泊
で
びわ湖旅

page.028

ゆるフェスの
立音舟と
キャン70
Karatsu
Seaside
Camp 2023
Page.034



鳥取県智頭町の旅
パンと
ビールと
時々
ニワトリ。
page.051

夏。
page.042
夏フェスこそ
軽いアイテムを選ぶべし!
かるごえ



特集 青春とアウトドア

Page.004



005

004

青春とアウトドア

撮影・関暁 取材・文・唐澤和也
取材日：2023年1月16日、
5月29日、30日、6月5日、7日、7月18日



き

っかけは、あいみよんだった。
コロナ禍の2022年3月。テレビのなかのあいみよんが泣いていた。NHKの『あいみよん18祭』という番組でのこと。

1000人の18歳と一緒にひとつの楽曲を奏でようという主旨で、2016年から毎回ホストを変えて開催されている人気番組。前年度はコロナ禍により開催が見送られていたから、製作サイドも、ホストに選ばれたあいみよんも気合が入っていたことだろう。そして、1000人の内のひとりに選ばれたいと願う18歳世代たちも。

オーディションは、直接顔をあわせるものではなく動画で行われる。わずか2年前のことなのに忘れがちだけど、まだコロナ禍だったからだ。

応募の動画を見て、あいみよんが泣く。
彼女が18歳たちへ話したテーマは「喜怒哀楽」。送られてきた動画のどれも喜怒哀楽に満ちていて、個性的でリアルで、切ないものもあった。それでも「私たちをかわいそうだと言わないでほしい」という18歳もいて、青春なんてはるか昔で、いまやおっさんの僕も泣いてしまう。

その頃の僕は、工夫すれば仕事はできていたというのに愚痴がちで、なにより友人と会って飲めないことを嘆いていた。彼らの状況に比べれば、なにを贅沢なことをという話だった。

18歳たちは、入学式や卒業式や文化祭や部活の大会や人生で一度しかないイベントが「なし」になってしまっていた。だからこそ、『あいみよん18祭』への参加を夢見たのだろう。番組宛に届いた動画のなかには、喜怒哀楽の怒ももちろんあったけれど、それぞれのやり方で状況を受け入れ、逃げずに抗っていた。

その時にメモっていたのが、「青春とアウトドア」というタイトルだ。旅、人、アウトドアの3つのキーワードをテーマとする本誌で、18歳世代の高校生に会ってみたい。それだけ。笑いの世界



でいう出オチ。旅と人はどうにかなりそうだけれど、アウトドアとのリンクが難しそうだ。そうは思っただけれど、誰に見せるメモでもないし、なによりそのタイトルが気に入っていた。

ところが、一気に企画が動きはじめる。

あいみよんに続くきっかけその2は、スウェーデントーチだった。

昨年末より編集長を兼務している月刊LOGOSというウェブマガジンの企画で、LOGOS製スウェーデントーチが完成するまでの過程を紹介することとなる。その工場は佐賀県にあった。

調べてみると、佐賀県は林業が盛んでアウトドアとの相性がよさそう。リサーチしていくうちに出会えたのが、佐賀県立伊万里実業高等学校・森林環境科森林コースの5人だった。演習林と呼ばれる自分たちの山で檜の木を切り倒し、チェーンソーを使ってオリジナルのスウェーデントーチを作って販売しているという。

佐賀県への旅、高校生という人、スウェーデントーチというアウトドアが繋がった瞬間だった。彼らとはじめての出会い、2023年1月17歳で高校2年生だった。5人の個性は見事なまでにバラバラだったけれど、共通していたのは、山が好きだということ。たとえば、吉永京伍くんはこんな言葉で山を語ってくれた。

「木材を加工して作るのが好きです。スウェーデントーチもそうですし、薪も僕らで加工しているんですけど、それも楽しくて。山も楽しいですよ。演習林のことを山と呼んでるんですけど、行くとテンションあがりますもん。ただ……キツイんですよね、山の作業って。一日中雑草を刈り取ったりして。基本楽しいんですけど、ちょっとだけ……ダルいです(笑)」

冬と春と夏と。特集「青春とアウトドア」は、まだ17歳で高校2年生だった彼らが3年生になるまでを追いかけた、青い季節の記録である。

17歳の スウェーデン トーチ



佐賀県立伊万里実業高等学校の森林環境科森林コースの生徒たちは、授業の一環として、スウェーデントーチを製作している／まずは、演習林と呼ばれる彼らが管理している檜の木を伐倒する(P4~5)。ちなみに、この演習林の広さは約27ヘクタールで甲子園球場約7個分！／彼らが製作しているトーチは大、中、小、ミニの4種類で、たとえば大サイズは直径24cm以上×高さ30cmと決めているとのこと／チェーンソーを使って実習授業の時、彼らはまだ高校2年生で17歳だった／右の写真4枚がその工程なのだが、上から3枚目の写真が「縦入れ」という難易度の高い作業。「次やる?」「無理っす」なんて声が聞こえてきそうだった。



2年秋の大会前にコロナになって。
 チームは
 県でベスト8までいったんですけど、
 マウンドに立てなくて。
 ベンチからの景色はちょっと嫌でした。

山口晃誠くん

小学5年生から野球が人生の真ん中であつた山口くんが「うまれてから一番悔しかったです」と振り返るのが高校2年時の秋の大会。再編・統合前の伊万里農林高校時代には甲子園出場（2009年）も経験している野球部は、その大会で県ベスト8に進出していた。けれど、大会前にコロナに感染してしまった彼の復帰は間に合わず、ベンチから懸命に応援した。「でも、夏の大会がありますから」と投球練習で腕を振っていたのは6月のことだった。



好きな子がいるんですけど、
 たぶんダメですね。
 うん、ダメだと思います。

吉永京伍くん

吉永くんはムードメーカー。はじめて会った時は「好きな子がいるけどたぶんダメ」なんてことも教えてくれて（青春だなあ）と感じていた。ところが、4ヶ月後の春に再会すると「あ、彼女できました！ でも、その子じゃないっす」と吉永くん。このスピード感もまた青春だった。ただし、吉永くんはムードメーカー、かつ、決めるところは決める男だ。ホッケー部で鍛錬を重ねて九州総体を制し、全国大会出場を決めている。

スケボーは
すっげえ好きなんですけど、
クラスみんなを見ると、
部活もやっておけば
よかったのかなあって。

—— 川添晃明くん



林業系の企業への就職を希望している川添くん。雨の日のスケートパークでの撮影に協力してもらったあとで、その先の夢も教えてくれた。「将来お金を貯めたら、スケボーの修行で東京へ出てみたいです。そのあとで、福岡の天神にあるスケートショップで働きたいから」。スケボーを通していろんな人と出会ったからか、川添くんの言葉は大人っぽかった。だからこそ、「部活もやっておけばよかったのかなあって」という言葉が胸に残った。

あんまり人気のない
農業とか山の仕事を
黙々とがんばっている人は
カッコいいと思います。
バスケットはシュートより
ディフェンスが好きです。

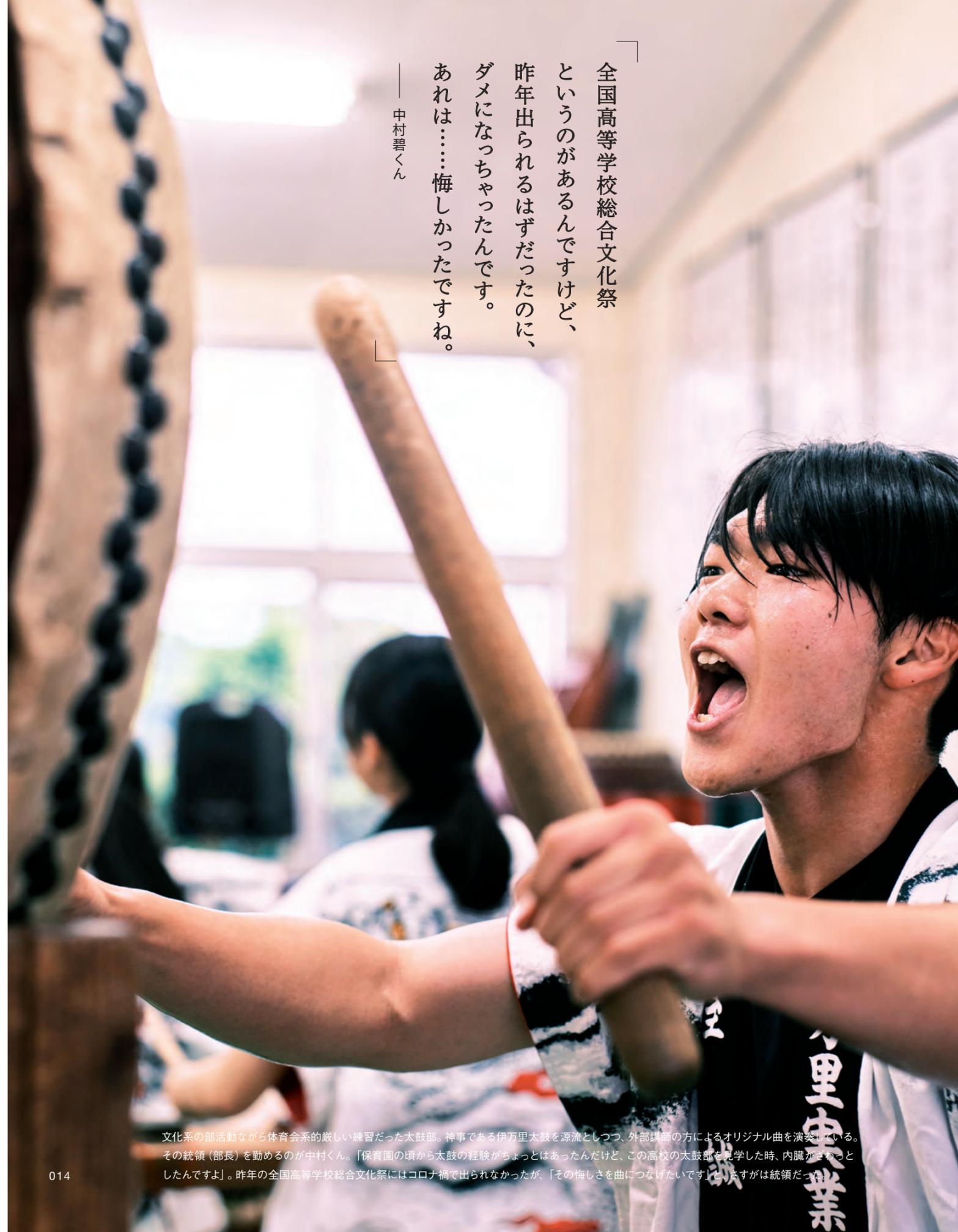
—— 江頭明隆くん



江頭くんの受け答えは、ひねりが効いていておもしろい。映画「THE FIRST SLAM DUNK」の感想を聞くと「おもしろかったです。でも泣いてはいない。涙目ぐらい」。同作では宮城リョータがものすごく低い姿勢からのドリブルで抜き去るシーンで涙目になったそう。カッコいいと思う人はと聞くと「農業とか山の仕事を黙々とがんばっている人」として「だから、農業をがんばっている両親もカッコいいです」と教えてくれた。



2023年1月からの一枚は、彼らが作ったスウェーデントーチとLOGOS製たき火台とのコラボ。写真左下の薪も彼らの製作アイテムだ。薪をくくるワイヤーはゴミになってしまうので、畜産部門から不要になった飼料袋を入手し有効活用。ゴミ袋としても使用できる。



「全国高等学校総合文化祭
 というのがあるんですけど、
 昨年出られるはずだったのに、
 ダメになっちゃったんです。
 あれは……悔しかったですね。」
 — 中村碧くん

文化系の部活動ながら体育会系的厳しい練習だった太鼓部。神事である伊万里太鼓を源流としつつ、外部講師の方によるオリジナル曲を演奏している。その統領(部長)を勤めるのが中村くん。「保育園の頃から太鼓の経験がちょっとはあったんだけど、この高校の太鼓部を見学した時、内臓がさわっとしたんですよ」。昨年の全国高等学校総合文化祭にはコロナ禍で出られなかったが、「その悔しさを曲につなげたいです」と、さすがは統領だった。



青春とは
人生です

その場を盛りあげようとの吉永くんの思いつきの言葉。でも、青春って人生なのかもしれない。世界最高齢プログラマーの88歳日本人女性がパソコンを覚えたのは58歳だった。

Q. 青春って
なんだろう？

恋愛です

野球ひと筋の山口くんだけれど、青春と聞くと真っ先に思い浮かんだのが「恋愛」だったのだそう。だがしかし、投球練習を撮影した6月現在、彼女はいないとのことである。



ふふふ。
友情？

川添くんは直球な質問が恥ずかしかつたのか、ちょっと笑ってからの「友情？」だった。でも、しばらくすると「友情ですわね」とスケボー関連や学校の友達の顔を思い浮かべていた。

友達と
わちゃわちゃ

直球質問でも受け答えにひねりが効いていた江頭くん。わちゃわちゃというのが彼らしくて、かつ、その通りかも。「部活でも放課後でも友達とわちゃわちゃしているのは楽しいです」。



いろんなことに
挑戦できる時期

統領として太鼓部を引っ張っている中村くんは、メンバーと一緒に撮影を。「友達とバカしているのもそうだなあと思うけど、やっぱり、いろんなことに挑戦できる時期かなって」。

